

社会委員会通信

No. 57

2019. 9. 8

発行：横浜港南台教会 社会委員会

〒234-0054

横浜市港南区港南台 7-8-29

Tel : 045-833-5323 Fax : 045-833-6616

8月18日(日)、横浜港南台教会は林間つきみ野教会の川浦弥生伝道師をお招きし、「沖縄・宮古・八重山の人々の問いと祈り～あなたはいつから日本人になりましたか?～」というテーマで平和講演会を開催しました。臨床心理士という立場から、常に当事者の言葉に耳を傾けるという講演者の姿勢は、とても好感のもてるものでした。市民、女性の視点から語られる沖縄の現状、慰安所の問題は、まさに時勢にかなったお話でした。分かりやすく具体的で誠実な語りにより、構造的差別、国という概念、現代の若者が抱える閉塞感、教育の大切さなど、広がりを感じさせるお話でした。

参加者は43名でした。参加者の皆様、ありがとうございました。

(社会委員長：A. R)



沖縄・宮古・八重山の人々の問いと祈り ～あなたはいつから日本人になりましたか?～

林間つきみ野教会伝道師：川浦 弥生

◆はじめに

私は1984年から2014年まで沖縄で暮らしました。その間に住んだ場所は、宜野湾市、那覇市首里、宮古島、石垣島です。保育所、学校や保健所、病院で臨床心理士として働いてきました。教会は佐敷教会で洗礼を受け、うふざと教会に新規伝道に出て、その後、宮古島伝道所で教会生活をしました。

◆属性

横浜港南台教会のHPから『社会委員会通信』を拝見しました。学びの積み重ねに驚いています。その中にある沖縄関係の『通信』はすべて読みました。平良愛香さん、宮良幸宏さん、佐久本正志さん、そして牧野邦久さんの講演です。前者3名は男性で、おそらく10代までは沖縄にいらした方々でしょう。私とは方向がまった

く逆でした。私は女性で、20代前半まで東京で生まれ育ち、その後沖縄に行きました。それぞれの方が貴重な証言をされていますが、私はせっかくなので違う視点から、私が学んだことを紹介させていただきたいと思います。新聞を読めば分かること、本に書いてあることではなく、できるだけ市民の、特に女性と子どもの生活文化に触れたいと思います。

沖縄で女性の視点と言うと、米軍の事件の話になることが多いと思います。でも、日常から見えることをお伝えしたいと思って来ました。とは言え、沖縄に住んでいれば、米軍の事件は日常の中に起こる出来事です。たとえば、私の体験としては、次女がやっと歩いてお散歩に行けるようになった頃、私は琉球大学で働いていて、宜野湾市のセミナーハウスのそばに住んで

いました。30年前の話ですから、まださとうきび畑がたくさんありました。さとうきび畑の真ん中の道を歩いていたら、突然米軍の兵士が5、6人、畑の中から飛び出てきました。屈強な、髪を刈り上げた人たちですから、兵士と分かります。でも、彼らは走ってどこかへ行きました。変なトレーニングを人の畑の中でしていたのでしょうか？あるいは、何か悪さをしていたのでしょうか？今の私ならすぐ、畑の中を確認するのですが、その頃は若くて、彼らの恐ろしささえ分かりませんでした。もし、畑の中に引きずり込まれていたら、私も娘も命の保証はなかったでしょう。それが、沖縄の日常です。

話は変わりますが、実は農村伝道神学校の卒論で沖縄教区の数年間の活動をまとめました。「チムグルサの共同体—『日本基督教団』沖縄教区のアイデンティティと霊性」というタイトルで、紀要第33号に掲載されました。私としては沖縄教区の役に立ちたいという思いで、特設委員会の委員として働いた記録を残すために、特に合同のとらえ直しのための議案であった名称変更議案の時間切れ廃案から、その後、沖縄教区が何を考えてきたのかを、沖縄の教会の人たちが発した言葉を中心に、当事者研究のようにまとめました。そこにあるのは、沖縄の人たちの生の声です。自分が長い間、臨床心理士という仕事をしていることもあって、当事者の言葉、考えを抜きにして、解決をすすめることに非常に抵抗を感じるからだと思います。そして、沖縄の人の生の声を取り上げることは、ヤマトの教会、ヤマトの人たちの抱える大きな問題が明らかになっていくことでもあります。

卒論の引用文献の中に、サイドという人が書いた『オリエンタリズム』という著名な本がありますが、長い間、私がヤマトの人たちに対して違和感を持っていた理由が的確に表現されていました。こう書かれています。「バルフォアにとっては、エジプトに関するイギリス人の

知識こそ、エジプトそのものなのであった」。どういうことかと言うと、バルフォアというイギリス人学者がいて、自分はエジプト専門なのだというわけです。しかし、それはエジプトに生き、エジプトを愛するエジプト人が知るエジプトではない、自分たちの興味、関心、あるいは都合に合わせた知識に過ぎないと言っています。そのように、ヨーロッパ人は中東を植民地にして、経済のみではなく、文化的にも支配しているが、それは非常に底の浅いものに過ぎないと言うのです。自分たちの枠で見ているエジプトを「これこそオリエンタルだ」と言っただけならず、自分たちの中にないものは見落としていることに気づくことができない、そういう植民地主義者であると指摘しています。こんなことを考えていましたら、『福音と世界』という月刊誌の9月のテーマが「沖縄という問いかけ」でした。まさに知識で埋め尽くされたような文章が並んでいます。

誰のために書いた文章なんだろうかと、沖縄の教会の人たちを思いながら、この難しい論文を沖縄の教会の人たちが読むとしたら、非常に限られた人しか読めない、つまり沖縄をテーマとしながら、そこに沖縄の人はいないでしょうと、これが暴力だと気づけないヤマトの知識人たちなのです。そういった沖縄の視点、生の声を肌で知っていくことが、どうしても必要だと思います。

サイドの指摘は、まったくヤマトと沖縄の関係にも当てはまると思いました。私は30年を沖縄で過ごしました。パートナーも子どもも、友人も親戚も職場も沖縄の人たちでした。ヤマトから来て、10数年も経つと、「もうこんなに長く沖縄にいるのに、まだよそ者扱いされる」とこぼす牧師たちを見てきました。とんでもない勘違いです。長くいればいるほど、ヤマトと沖縄は違うと実感しました。

話は飛びますが、平良愛香さんの講演の中で

「ぼくは争いが嫌いだから」というような話がありましたし、よく外の場所でも彼はそう言います。私は、ああ、やっぱり沖縄の人なんだなあと思うわけです。人との関係の作り方が非常に違うのです。だって、どんなに考えがぶつかる人であっても、周囲の人は必ず親戚だったり、友だちの友だちだったりして、その人と自分に繋がりがあるのです。だから、小さな地域で一緒に生きるためには、相手をとことん追い詰めたり、排除したりすることはなかなかできることではありません。そのあたりが多分愛香さんの身に染みついている、ヤマトの人と決定的に違うなあと思うのですが、ヤマトンチュにはその自覚が持てませんので、言葉では伝えきれないもどかしさがあります。でも、愛香さんは誰とも仲良くするから、とか、闘わないからとか言われてしまっているようです。仲間とそうでない人を分けたがる、いまだにムラの発想で動いているのではないかと思えるようなヤマトの人の不思議なところですね。そして、力のある人には付度しています。

◆立ち位置

そこで、私たちヤマトンチュに必要な自覚が、立ち位置です。そのあたりは佐久本さんが微妙なニュアンスを語っていたように思います。私は家族がウチナンチュであっても、やはりヤマトンチュなわけです。上の娘が「ママ、沖縄の人のふりしないほうがいいよ」と言いました。下の娘は沖縄独立論者です。私は沖縄では家族とも異なるアイデンティティを持つ寄留民で、日本ではヤマトンチュとしてのアイデンティティをもつ日本人です。ちなみに寄留民という言葉は聖書でしか聞いたことがないと思いますが、沖縄では宮古や八重山の人たちが沖縄島に暮らすと、寄留民ということになります。愛香さんの話にあったように、沖縄と宮古、八重山、奄美の間には、今でも力関係がはっきりと存在しています。そういう力関係をガルトウン

グという人が「構造的暴力」と言いました。

私はこんなに沖縄のことを考えて行動しているのに差別だと言われるのは心外だと、ヤマトの人は怒ったりします。良心を否定されて傷つくわけです。でも、ヤマトンチュがいるだけで気をつかって本当の話はできない、と沖縄の人たちは言います。私がいた教会は佐敷教会とうふざと教会で、どちらも平良修牧師が牧会していたため、ヤマトの教会からお客さんが頻繁に来ていました。そして、お迎えするわけですが、その方たちが帰ったあと、高齢者たちが言うのは「ヤマトの人は口が達者ね」という言葉でした。それは馬鹿にしているのではなくて、言葉の間合いや意味の違いを言っているのです。でも、ヤマトの教会のお客さんたち、あるいは辺野古に来るヤマトの市民たちは、そういうことを意識しません。沖縄の高齢者は皇民化教育をイヤというほど強制されてきて、劣等な人であるとすり込まれています。

ある地域で道が舗装されました。そうしたら、高齢者女性が娘さんに「A子、これでヤマトから馬鹿にされないね」と言ったので、娘さんはいまだに、それほどまでに劣等感を植え付けられているのかと驚いたそうです。そのように、市民の日常のつぶやきの中に、歴史と真実の声を聴くことが大切だと思っています。そして、ゆめゆめ私たち日本人の植民者としての立ち位置と姿は間違えてはいけないと思います。そのことをヤマトンチュの心に伝えるにはどうしたらよいかと、いつも悩みます。そこで、一つの和歌をご紹介します。

「この海がいいねと君が言ったから、5月1日は独立記念日」

これは、大浦湾に土砂が投入され始めた時に、宜野湾市に住んでいる小学校6年生の孫娘が作った歌です。君というのは、日本政府、日本人でしょう。5月1日は新天皇が即位した日です。こういう歌を作る小学生がなぜ育つのか、

どうぞ一緒に考えてください。

◆沖縄クイズ

さて、いくつかのクイズを準備しました。

- ①さんぴん茶の入れ方を説明してください。
- ②寝るときに頭を向けてはいけない方向は？
- ③「いいはずよ〜」ってどんな意味？
- ④18歳の星野勉さんは国籍を日本と書きました。税関の人はどんな対応をしたのでしょうか。なぜ日本と書いたのでしょうか。

①ある時、私がさんぴん茶を入れました。それを見ていた高齢女性は義理の母ですが、私を「なんてケチな子だろう」と思ったそうです。その女性がお茶を入れました。私はなんてひどい入れ方なんだろうとあきれました。沖縄ではさんぴん茶を入れる時、大きな茶器に熱湯をどぼどぼと入れます。そのままにしておいて、1日に何度も飲むのです。でも、緑茶は違いますね。人数分だけを入れて、残しません。なので、お互いに驚いてしまったということです。

②となりの家のヤマトンチュの女性が、沖縄に来たばかりの頃、ウチナンチュである夫の実家に行った時、赤ちゃんを寝かせようとしたら、義理のお母さんに「西向きに寝かせるな」と言われました。彼女は「それは、北ですよ」と言いましたが、お互いに譲らずにケンカになりました。沖縄では北をニシと言います。

③ウチナンチュの友人と会話をしていると、頻繁に「いいはずよー」とか「いいはず〜」と言います。「え、なにがいいの？」と聞き返すと、話がストップしてしまいます。「いいはずよ」は「うらやましいね」とか、「よかったね」という相づちの一種でした。

愛香さんは、小学生まで方言を禁止されてい

たと言っています。私と仕事をした保健師さんも方言札があったこと、方言を使わなかった人にはご褒美としてノートがもらえたことを話してくれました。貧しかったので、ノートが欲しくて方言を使わないようにがんばったと言います。ですから、「いいはずよ」のような、標準語からすると不思議な使い方でも、沖縄の人たちはこれを標準語だと思って使っています。ある高齢の男性は私の前では決してウチナーグチを使おうとしませんでした。そして、お連れ合いがその男性に向かってウチナーグチを使うと、恥ずかしいから止めなさいと怒るのでした。本当に深く否定されてきたことが分かります。また、沖縄の人は標準語とされる私たちの普段の言葉で否定すると、とても傷つくようです。沖縄では否定する時に、直接的な表現をしないことが多く、同意しない時には「どうかね〜」と言ったり、話を微妙にそらしたりして、お互いにそれで了解し合っています。関東に戻ってきて、女性の言葉の強さに驚いています。「〜だ」「〜だね」で終わるので、語気が強いせいもあるかもしれませんが、言い切りや若者言葉「ヤバイ」などの単語を女性が使うのを聞くと、私は不快になります。西の文化ともまた違う、言葉の荒さを感じてしまいます。

④星野勉牧師（私の連れ合い）は1965年に農村伝道神学校に内地留学しました。鹿児島で船を下りて、税関で国籍を記入する時、「日本」と書いたら、「おまえは日本じゃないだろう」と叱られました。宮良さんの話にもあったように、渡航証明書には日本ともアメリカとも書いてありませんし、何の保証もありませんでした。18歳の星野さんは立ち尽くしていたそうです。後ろから来た大人が「琉球と書くんだよ」と教えてくれたそうです。琉球軍政府下のことです。なぜ彼が「日本」と書いたのかと言えば、小学校からずっと日本国憲法を学んできたからでした。つまり、沖縄の教師たちは、日本国憲法

が自分たちの誰にも適用されないにもかかわらず、子どもたちにそれを教え続けたのです。その教師たちの気持ち、そして立ちすくんでいた18歳の青年の気持ちを、私たちは知る由もありませんでした。一体、沖縄について、どれほどの知識が私たちにあるのでしょうか？この現実をまず、知るべきではないでしょうか？

◆琉球弧



ここから映像を使ってお話しします。上の地図は琉球弧です。愛香さんは詳しい地理なんか知らなくていいとか言っていましたけれど、私は知ってほしいと思います。これは種子島です。ここが屋久島です。この辺に象の檻がある喜界島とかなんかいっぱいあって、これが奄美大島になります。そして与論島とか徳之島とかあり、ここに沖縄島があります。北大東島と南大東島はすぐ離れています。ここ(赤字)が宮古島で、沖縄島から宮古島まで約300kmありますから、東京と名古屋ぐらい離れています。

そして、これが石垣と西表、これが与那国です。私は仕事で与那国島にも行っていました、時々晴れると台湾が見えます。すごいですね。3,000m級の山々がうっすらと見えます。台湾は那覇より近いので、与那国中学校の生徒は修

学旅行は台湾に行きます。

与那国島から150km離れたところに尖閣列島があります。与那国の漁師さんたちが言うには、「昔から台湾、中国、沖縄は一緒に使ってきたよ。一緒に漁業したり、台風だったら助け合ったりしてきたよって」。敢えて境界線を作ってしまうのはどうでしょう？国境に近ければ近いほど仲良くしたいですよ。軍備増強なんてとんでもないことだと、星野さんはとても怒っていました。

◆辺野古



上の写真は皆さんがよくご存じの姿だと思えます。普通におじい、おばあが来ています。「さらばんじの会」というのがあって、高齢になった退職者の会なんですけれど、「子育てや仕事をしている人は大変だから、私たちががんばるさ」と言って座り込んでいます。

◆高江

下の写真は高江です。今はヘリパッドが建設され、オスプレイの訓練が増えました。前林間つきみ野教会牧師の吉田慈さんが逮捕されたのも、この高江です。



◆祖国復帰の碑

もう少し北に行くと、辺戸岬に祖国復帰の碑が建っています。碑文の中に、祖国復帰して本当に良かったんだろうかというようなことが書いてあります。



祖国復帰の碑

◆やちむんの里

下の写真は沖縄ののどかな風景です。読谷にある「やちむんの里」で撮りました。がじゅまるの木があって、ここに月桃の花があります。これは登り窯と言って、これで焼き物を作っています。



◆宮古島

私は宮古島で暮らすことが長かったので、今日は中心的に慰安婦の碑の話になると思います。宮古島は八つの島々から成る宮古群島です。池間島というのがあって、橋で繋がっています。ここに来間島（くりまじま）があって、これも橋で繋がっています。ここに下地島という



のがあります。それから、大神島という島があって、住民は20人くらいです。そこに中学生が一人いたんです。教師が7人付いて学校が維持されていて、先生たちは宮古から船で毎日通っていましたが、さすがに生徒一人でお友達がなくて可哀想でした。その子は高校生になってしまったので、今はもう学校はないのではないかと思います。あと、多良間島と水納島というのがあります。

特徴としては、平坦なので川がありません。宮古島の面積は約159.2 km²です。横浜市は437.6 km²で港南区は19.9 km²、川崎市は143 km²です。何となく分かりますか？



宮古空港から車で約40分、三角形の形をした宮古島の最東端に、絶景・東平安名崎（ひがしへんなざき）があります（上の写真）。ここはよくコマーシャルに出るんです。

この写真（7ページ）は与那覇前浜（よなはまへま）という海です。この間「宮古島バブルです」というニュースがあって、中国から大きな船がいっぱい来て、（この砂浜はほとんど

人がいなかったのですけれども) 今、毎日観光客がこの海に来るため、地元の人が行けなくなったと言っていました。



私は保険所の仕事で来間島に住民検診とか乳児検診に行くのですけれど、フィリピンとかベトナムからの女性がたくさん来ています。1人 200 万円だったと言っていました。50 歳とか 60 歳ぐらいの島の男性に嫁いで跡継ぎを産みなさいと言われて、中にはフィリピンに家族がいるという女性がいました。1 番上の子は 30 歳で 1 番下の子は 10 歳で、その 10 歳の女の子を連れて来て、赤ちゃんが生まれました。10 歳の子が通訳をしていました。小学校に入って言葉を覚えて。悲しいことに、彼女たちだって日本と言ってもここが非常に小さな島であって都会があるということが分かってきます。そうすると、子どもを産んだら、子どもを置いて大阪や東京に逃げてしまうのです。私はその 50 歳、60 歳のお父さんと残された子どもの相談に乗ったりしていました。何とも言えない気持ちでしたね。

同じ南の島とは言え、食生活とか違います。島の人たちは入ってきたベトナムやフィリピンや中国、台湾の女性を嫌がります。ちょっと見下して馬鹿にするんです。生活習慣が違って、お食事も作れない。そういう女の人たちと片言でお話をするのですけれども、私がフィリピンの地図を書いて、どの辺から来たかと尋ねると、自分のことを聞いてくれたと言って、すごく喜んでくれます。食事のことを聞いたら、タロイモとかバナナをほとんどが食べていた

ので、料理は分かりません。あとは、いっぱいお菓子を売ってますよね。美味しいものだから、お菓子をいっぱい買ってきて、子どもも自分もお菓子を食べているとか、そんな感じでした。

母親教室で絵を描いてもらったのですが、ベトナムの女の人は絵が描けませんでした。「日本人は絵が上手ね」と言って笑うのです。学校教育の中に美術の時間とか図工の時間がなかったそうです。絵を描くということも、やっぱり教育的成果だと思いました。

◆宮古空港



上の写真は宮古空港で、これはサシバ(アカハラダカ)という鷹が翼を広げている恰好です。シベリアから秋になると鷹がいっぱい来ていたそうです。昔は何万羽と来ていたので、平良修牧師は畑の中に隠れていて、鷹が来た時に足を掴んで捕まえて、鷹汁にして食べたら、美味しかったそうです。でも、今は野鳥の会が数えるほど、50 羽とか 60 羽になってしまっていました。

◆宮古の花



グアバの花

これはグアバの花です。沖縄ではバンシルーと言います。コマーシャルで蕃爽麗茶と言っています。本当に綺麗で上品な花です。宮古島伝道所の庭にもありました。



ブラシの木

これがブラシの木で、宮古にしかないと思ったら、横浜にもありました。ブラシの形をしていて、面白い花です。

◆宮古島伝道所



これが1970年頃からずっと使っていた宮古島伝道所です。庭が広くて、とても好きでした。大きながじゅまるの木がいましたが、今はここに立派な建物が建っています。教会の庭ではバナナも取れました。あと、アセロラもありました。

◆日本キリスト教団 宮古教会

これ(右上の写真)が沖縄キリスト教団宮古教会です。合同前に持っていた看板で、うちの



教会だけがこの看板を持っていて、宝物です。「沖縄キリスト教団」と書いてあります。宮古教会だったのですけれども、合同した時に岩手の宮古教会からクレームがついて、「同じ名前にしないでください」と申し入れがありました。それで宮古島教会になりました。それから、私が古い資料をあさっていた時に、米軍の牧師の、教団で言えば式文のようなものがありました。もちろん英語で書いてあるのですけれども、中を開いてみたら、ほとんどお葬式の仕方が書いてありました。米軍の牧師って、亡くなった兵士を弔うという役割が大きいのだなあと、その時分かりました。

初代の牧師は国仲寛一牧師です。この方は早稲田大学の非常勤をやっていたのですけれども、戦後沖縄に帰って来てくれと言われて、宮古高校の校長先生になりました。でも、校長をしている時に、教会を作らないかという話を持ちかけられて、初代の牧師となった方です。牧師になって3年か4年目に結核で亡くなりました。その時、高校生だったのが平良修さんです。『イエスと歩む沖縄』の中で、国仲牧師はいつも飴をしゃぶっていたという話をしていますが、結核のためにのどが詰まるからです。そうやって説教していたのかと、今だったら公衆衛生上あり得ないと思います。感染するので、平良修さんは結核になりました。そんなことがありました。



これ（上の写真）が教会の中です。4、5人で礼拝をしていました。こういう形で礼拝していました。だから、林間つきみ野教会は15人でも多いなあと思えるんです。

◆第二次世界大戦下の宮古島

島の人口5万人のところに3万人の日本軍が宮古島に入って来ました。当初は各学校を接收し陣営していましたが、戦況の悪化に伴い、各山野に分散して、第28師団が野原（のぼる）地下壕に司令部を置きました。山野に分散した時はテントみたいなところにいたと、おじいちゃんたちが言っていました。5万人のところに3万人で、あと九州に疎開した子どもたちもいました。対馬丸に乗るはずだったというお父さんに会ったことがあります。野原地域というのは、そこにある海軍飛行場に滑走路が3本もありました。ここが戦後米軍基地になり、施政権返還後、航空自衛隊野原駐屯地になっています。これが今、拡大された基地になっていっているんです。



左下の写真が野原です。宮古島で一番高いところがこの野原岳で120mで、宮古島は平坦な島です。これが後で慰安婦の問題と関わってきます。第二次世界大戦中の宮古島は飢餓との戦いでした。3万人の兵士が、それを攻撃して目の前でその船が沈んでいくのが見えたと言っています。日本の兵隊が夜来て、「食べるものありませんか?」と言って、本当に可哀想だったと、おばあちゃんたちが言っていました。

◆忘勿石之碑

マラリアでもたくさんの人が死んでいきました。西表島には、マラリアで有名な「忘勿石（わすれないし）之碑」というのがあります。日本軍から西表に移住しなさいと言われた子どもたちがいて、校長先生が連れてそこに移住すると、マラリアで子どもたちがどんどん死んでいきました。校長先生はこの悲惨な体験を忘れるなという思いを込めて「忘勿石 ハテルマシキナ」と石に刻みました。その校長先生は星野勉さんのお父さんの担任だった先生で、「いい先生だったよ」という話を聞きました。

高澤義人さんという、生き残った方が戦後ジャーナリストになって『しんぶん赤旗』の記者になったそうです。その後、島に戻って来て、忘れちゃいけないということでこの碑（下の写真）を作りました。「補充兵われも飢えつつ餓死兵の骸（むくろ）焼きし宮古（しま）よ八月は地獄」と書いてあります。



◆慰安所

1944年より沖縄に慰安所の建設が始まりました。1944年3月、第32軍が沖縄守備隊として創設されています。1944年と言ったら、もう戦況が厳しくなっている頃だろうと思います。やっぱり沖縄をこの頃から既に捨て石にしようと思っていたのか、11万人の日本軍が満州から移動して来ています。その日本軍のために慰安所を次々に作っていきました。沖縄のすべての島に作りました。宮古島の慰安所は17箇所でした。

宮古島は、ほとんどが平地です。そうすると、民家が散在しているわけです。沖縄本島の場合は、山間に慰安所を作りました。山間には民家がないから隠すことができました。けれども、宮古島は、島中のいたるところに住民がいましたから、慰安所を隠すことはとても難しく、住民の証言者がたくさんいます。また宮古島には、軍ではなくて自治体に公文書が残っています。どういう公文書かと言うと、戦後慰安所が使っていた材木を使って爆撃されてしまった城辺小学校を再建するのですが、その時、軍からこの材木を買いましたという領収書が自治体に残っていました。軍は焼いてしまえば分からないけれど、自治体の側に残っていたのです。沖縄県の県史にそれが載っています。軍が焼いてしまったり隠したりしても、やっぱりほころびが出るということです。

『主戦場』をご覧になりましたか？ 私も見に行きました。慰安婦問題を巡っていろいろな人が出て来て証言をする映画です。日本会議などがこの映画の上映を止めようとしています。最後びっくりしちゃうのですけれど、一番の黒幕が出て来るのです。彼が「ほら、日本は戦前に勝ったでしょ？」と言うのです。自分たちが負けたと思っていないのです。ちょっと理解に苦しみます。その中で、慰安婦の人数が嘘だという話が出て来ます。あんなにたくさんの慰安婦はいなかったはずだと、日本会議の人たちが

言うのです。それに対して、「兵士100人に対して慰安婦1人」という軍の資料が残っていません。今回のために計算してみました。宮古島の場合、3万人の兵士でしたね。慰安所が17箇所、1箇所に慰安婦が約8人いるとすると、1人で約220人の相手をする事になります。慰安婦が何十人も相手にしたのは嘘だと言う人がいますが、計算上合っています。沖縄県だけで140箇所ありましたから、1箇所に8人とすると1,120人、フィリピンとかラバウルとか、いろいろな地域の慰安婦を合わせたら、全体では膨大な数の慰安婦がいたことが分かります。

◆アリランの碑



上の写真は「アリランの碑」と言われていて、ここに三つの碑を建てました。今、とても有名になっていますが、実は、地元にいる上里清美さんと清水早子さんと私が作ろうという話を始めました。なぜかと言うと、第1次安倍内閣の時に、安倍首相が狭義の強制連行はなかったという話をしました。宮古島市議会であらうと同じ時期に戦跡マップを作ろうということを行った議員たちがいました。それは途中まで進んでいました。当時は、今の下地さんと違って革新の市長さんでした。革新の元お医者さんだった方が市長で、保守の人たちが、「安倍首相は狭義の強制連行はなかったと言っているのだから、このマップの中に慰安所なんか書くことはない」と言って、市長に見解を正しました。市長が、「いやいや僕が小さい頃、僕の家そば

に慰安所があったし、これはちゃんと戦跡として残さなければならない」と言ったら、保守の人たちが議事を紛糾させて、議論ができないように退場したりしました。それで、私たちは講演会を開こうと言って、Vaww-net-Japan が作った、天皇裕仁を国際裁判所で有罪とするビデオ『女性国際戦犯法廷』を持ってきて、中央公民館で上映しました。それを観ていた人たちの一人が「東京に私の知り合いで韓国から留学している研究者がいるから、その人を呼ぼう」と言いました。それで、その若い女性研究者を呼んで講演会を開きました。韓国からの留学生なので挺対協と繋がりがあったり、Vaww-net-Japan と繋がりがあったりして、挺対協の人たちがこのことを聞いて、宮古島に碑を作ろうと言ってきました。それで、一緒に作りましょうと言ってお金を集めました。この土地はある方が自分の土地だからここを使って欲しいと言ってくれました。この土地に三つの碑を作りました。ここに 12 のプレートがありますが、同じ言葉が書いてあります。日本軍が慰安所を作った 11 の国の言葉で同じことが書いてあります。もう一つは、ベトナムの言葉で韓国のことを謝罪するベトナムの碑を入れたいと言って、12 の言葉になっています。



上の写真はちょっと古いものですが、挺対協の尹貞玉（ユン・ジョンオク）先生（右から 4 人目）が来たりして、こういうふうに毎年 9 月の第 1 土曜日は記念集会を開き、講演会

をしています。

尹貞玉さんは挺対協を作った方なのですが、今 94 歳です。60 歳まで韓国の梨花女子大学の英語の先生だったそうです。文学には人間の苦しみが入っているので文学を学びたいと思ってずっと大学の先生をしてこられました。60 歳で退職した時に、自分と同じ世代の女の子が挺身隊として日本軍に行ったけれど誰も帰ってきていないのがずっと不思議だったと言って、徴用工みたいにしていた男性たちに話を聞きに行きました。「どうして帰ってこないの？」と聞いたら、慰安婦にさせられていたということが分かりました。尹貞玉先生は 60 歳から、自分が文学をやっている間に彼女たちがどんな苦しみを受けていたかということを考えたと言って、挺対協を作りました。尹貞玉先生と話をしたら、彼女のお父さんは牧師だったそうです。日本軍が何をするか、挺対協に入ったら娘が何をされるかということは薄々分かっていたので、「この子には婚約者がいます」と嘘をついて、挺対協から外れたのです。尹貞玉先生は、自分だけが逃れたことも自分自身の罪悪感になっていると言っていました。



「アリランの碑」に行かれたら、是非裏側を見て欲しいと思います。ハングルで書いてあるので、皆さんは分からないと思います。私も分かりませんが、尹貞玉先生がこの文を書きました。何が書いてあるか尋ねたら、「イザヤ書 30 章の 25 節から 26 節があるでしょう？この

文章を元にして私は裏の文章を書いたよ」と言っていました。「大いなる殺戮の日、塔の倒れるとき、そびえ立つすべての山、高い丘の上に、水路が造られて、水を運ぶ。主が民の傷を包み、重い打ち傷をいやされる日、月の光は太陽の光になり、太陽の光は七倍になり、七つの日の光となる」。光復節(8月15日)ってありますね。もしかしてここから来ているのかなと思いました。光が7倍になるのが光復節かなあと思いました。みんなで桔梗の花を手向けたりしています。

◆私が聞いた証言

以下は私が聞いた証言です。

①与那覇 博敏さん(85歳)

アリランの碑の土地を提供してくれた方で、野原の慰安所の近くに住んでいました。アリランの碑があるところのすぐ前に実家があります。「慰安所から泉へ洗濯をしに行くお姉さんとよく話をした。唐辛子をちょうだいと言われてあげたよ」という話をしていました。そのお姉さんたちが腰をかけて休んでいた場所が、今の碑がある場所になります。

②佐和田 方英さん(94歳)

「現地徴用で軍で働いていた。慰安婦は何人かいたよ。若かったねえ。何人かで歩いていた。ある人が日本は謝るべきだと思いますかと聞いたら、「遠くから連れてきて知らない男と寝かせたんだ。かわいそうさあ。謝るべきさ」と言っていました。

③根路銘 俊子さん(88歳)

その当時は、新聞に載せてもらって、慰安婦のことを覚えている人は電話してくださいというふうにして、宮古島伝道所に電話がかかってくるようにしていました。そうしたら、根路銘さんが電話をかけてきてくれて、「宮古島の日本軍司令部で経理の仕事をしていた。上官に

頼まれて、時々洗濯物を取りに慰安所になっていた民家に行った。まだ幼い感じの娘さんたちがいて、兵隊が並んで立っていた」と言っていました。民家も借り上げになっていて、将校クラスは他の兵隊と一緒に慰安所に行かないのです。地元の大きな民家を軍が借り上げて、そこを住まいにして、慰安婦がそこに通うという形にしていました。

④その他の17名の証言

宮古島伝道所に国仲寛一牧師(初代牧師)がいた頃です。元慰安婦かと思われる女性がいましたが、他界して確認できなかったのですが、数年後、証言者が現れました。その証言者はよく知っている方だったので、ちょっと驚きました。高校の先生をしていて、リベラルで非常に良い方でした。「僕が子どもの時に国仲先生のお宅に片方の腕から下がない女性がいた。腕がないから面白がってからかって、大人たちは朝鮮ピーって言うていたから『朝鮮ピー』と言って石を投げた」という話を初めてしてくれました。良心的な方ですから、ずっと申し訳ないと思って誰にも言えなかったそうです。これは本当のことだったということが分かりました。それで説教を作らせてもらったことがあります。国仲寛一牧師は彼女にきっと聖書のみ言葉を伝えたことでしょう、その言葉によって少しでも癒され、韓国に帰っていたらいいなと思います。でも、そういう方が私のいた教会におられたことに驚きました。

⑤該当者を教えてもらえない証言

「宮古の女性で将校の慰安婦にさせられた人が生きているが、みんな知らないふりをしてい」と言っていました。将校の慰安婦は日本人だったり、沖縄の人だったり、兵士の慰安婦は韓国や朝鮮の人だったそうです。戦後結婚しても、名前とか居場所は絶対言いませんでした。「元慰安婦が島の男性と結婚して男の子を産

んだけども、いつの間にかその女性はいなくなつた。でも、その子どもは島で暮らしている」と言っていました。



沖縄戦ですけれども、「県民、最後の一人まで闘え」と牛島中将が言ったので、8月15日が終戦だと日本では言いますが、実際に戦争が終わるのは9月上旬です。犠牲者は住民15万人です。でも、牛島さんのお孫さんは高校の先生になって、自分のおじいさんのことを調べて平和教育をやっています。ちょっと救われる思いがします。

◆オスプレイ



これ何だかわかりますか？ オスプレイです。保健所で発達が気になる子どもさんのプレイセラピーをやっていた時に、レゴで小学校の男の子がこれを作りました。そして、これを「この飛行機はよく落ちまーす」と言って、落とすのです。子どもも見てるんだ、と思いました。

◆平和学習は保育園から

私の子どもはバプテストの保育園に行っていました。そしたら、近所のおじいちゃんが来て、戦争の時に山原（やんばる）を逃げ惑った話をしてくれました。それから、「食べるものがなかったから今日は1日ご飯を食べません」と言って、お昼ご飯を食べないのです。その代わりにクラッカーか何かを数枚食べさせ、「お腹が減るってこういうことだよ」と話します。体で知っていくということで、保育園から平和学習をやります。



上の写真は平良第一小学校の掲示物で、小学校も中学校も高校も6月になると1ヶ月平和学習月間というのをやります。ある時、中学校の社会科の先生が扶桑社の教科書を使って授業をしたことがあります。まだ扶桑社の教科書を使ってはいけないう頃です。みんなで組合の先生や校長先生のところに行って、「これ扶桑社ですよ」と言って中を見たら、「特攻隊というのは国のために尊い命を捨てたという人たちです」と書いてあったので、急いで沖教組の本部にも連絡しました。沖教組は「教師の授業内容に口を挟むことはできません」と言うので、仕方なくて教育委員会に行ったら、「沖縄県の平和学習はこれではいけません。沖縄県の平和学習のテーマは、軍隊は住民を守らないということを知ることです」と言ったのです。沖縄ってやっぱり違うんだと思いました。その先生に社会科の指導主事から指導が入りましたが、私はその先生から「先生が言ったんでしょう？」

と怒鳴られて、大変でした。他の先生が間に入って、「まあまあ」と収めてくれたのですけれど、ずっと恨まれました。沖縄出身でもそういう若い教師がいるということで、とても心配になりました。でも、まだ平和学習をしています。



上の写真は後ろから撮りました。ここに遺体が転がっています。人が焼かれているのです。この辺に艦砲射撃の跡の写真があったりします。スクールカウンセラー的に言うと、この子はこの腕で自分を支えています。お友だちにしがみつきたいけど自分はもう大きいから耐えているのです。こちらの子は後ずさりしたいのです。後ずさりしたいけどこの腕で自分を支えています。どうしてこういう写真を展示しているかと言うと、戦争が恰好よくて美しいものだというような思いを子どもたちははしてきているからです。今、東京都は5年生全員と面接をさせられるのですが、プラモデルを作るのが好きだという子がいます。「どんなのを作るの?」と聞くと、必ず戦車とか戦闘機と言います。今の日本は、そういうふうになってきています。だから、戦争は綺麗なものでも格好いいものでもないということ、沖縄の子どもたちはこれを見て学んでいるのです。

◆おわりに

下の写真が今、できてしまった千代田の自衛隊の新しい基地の様子です。昔はゴルフ場でした。宮古島に配備が予定されている部隊規模は700人～800人です。これは牧師の村椿嘉信さんが訳した本ですけれども、アルノ・グリュウという人が『私は戦争のない世界を望む』という本を書きました。グリュウさんは精神科の医者ですが、ユダヤ人としてナチスの迫害を受けています。この本には、次のように書かれています。「戦争は避けられる。それは私たちが考える以上に簡単なことだと思う。なぜなら、私たちの多くが人間的な結びつきを持つことにあこがれを捨てていないからである。その際に、私たちの内面の深いところから湧いてくる夢が戦争を避けようとする私たちを助ける」。今、日韓関係の悪化とかいろいろありますが、市民レベルでお友達がいるということが大事ですね。

「老人は夢を見、若者は幻を見る」というヨエル書の言葉のように、諦めないで夢を見ましょう。私たちはイエス様の言葉によって養われていますから、最後まで夢を見ていきましょう。それが力になるということです。これで私の話を終わります。ありがとうございました。



社会委員会からのお知らせ

- ★2019年度も社会委員会平和講演会に多くの方がご参加くださいました。感謝申し上げます。
- ★社会委員会へのご意見や学習会で取り上げてほしいテーマなどありましたら、社会委員にお知らせください。